

戸別収集に関する実証実験について

2 戸別収集(燃やせるごみ)実証実験による検証

1 ごみ収集方式の現状等

(1) 現状(ごみステーション収集方式)

- ・ごみステーションは市内に約7,400か所あり、決められた収集日の朝8時まで、近隣のごみステーションにごみ及び資源を排出
- ・清掃等の維持管理は、利用者(町内会等の住民)が実施

(2) 戸別収集について

戸別収集とは、各家庭が自宅前にごみ及び資源を排出し、収集員が一軒ずつごみを収集していく方式のことです。

(3) 収集方式による比較

戸別収集は、排出者責任が明確化され、ごみの減量及び分別の促進等の効果が期待される一方で、ごみステーション収集に比べてごみ収集費用が増大するなどのデメリットが考えられます。

表1 収集方式によるメリットとデメリットの比較

	ステーション収集	戸別収集
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ収集の効率が良い ・比較的、ごみ収集費用を抑えられる ・排出者が特定されないため、プライバシー及び防犯面の不安が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・排出責任が明確化され、ごみの減量及び分別が期待できる ・ごみ出しの負担が軽減される ・ごみステーションの管理が不要になる ・ごみステーションの設置場所等の調整が不要になる
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・排出者が特定されないため不法投棄、排出マナー違反が多い ・ごみ出し困難者への支援が必要になる ・ごみステーションの管理が必要になる ・ごみステーションの設置場所等の調整が必要になる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみステーション収集方式に比べてごみ収集費用が増大する ・ごみ収集の効率が悪い ・排出者を特定しやすいため、プライバシー及び防犯面で不安が生じる

想定される戸別収集のメリット及びデメリットについて検証し今後のあり方を検討するため、実証実験を行うこととしました。

(1) 実証実験の概要

ア 選定地区及び実施日

石尾台1丁目地区(約500世帯)を対象に9月6日から10月28日に実施。

イ 選定理由

外部から車の進入が少なく、安全に収集作業を行えるうえ、様々な道路形態があり、多くの実証実験データを得られるため。

(2) 実証実験の結果

表2に示すとおり、作業時間及び走行距離について、ごみステーション収集と比べて、約4～6倍と大きく増加しています。

表2 実証実験の結果

検証項目	ごみステーション収集	戸別収集	
		3人乗車	2人乗車
作業時間	43分	⇒166分(約4倍)	⇒258分(約6倍)
走行距離(収集車1台あたり)	0.8km	⇒3.6km(約5倍)	
*参考			
作業員1人当たりの負担(歩数)	484歩	⇒8,464歩(約17倍)	⇒11,672歩(約24倍)

(3) 戸別収集に必要な費用等の試算

上記(2)の結果を基に、作業時間等が5倍必要と仮定し、市内全域で戸別収集を実施した場合の費用等を試算しました。初期費用(車両購入費)で約9億円、維持費(人件費等)約20億円、委託費で約8億円、ごみステーション収集と比べて、合計約37億円の増加です。

表3 費用の試算

	初期費用		維持費		委託費
	車両費:約900万円/台	人件費:約600万円/人	燃料・修繕費		
ごみステーション収集	約2億円(24台)	約4億円(72人)	約0.4億円		約2億円
	5倍				
戸別収集	約11億円(120台)	約22億円(360人)	約2.0億円		約10億円
差額	約9億円	約18億円	約1.6億円		約8億円
差額小計	約9億円	約20億円			約8億円
差額合計	約9億円	約28億円			

(4) アンケート調査による市民ニーズの把握

ア 概要

実証実験終了後、各戸にアンケートを配付し、郵送にて回収しました。
(期間：10月31日～11月14日、配付:478通、回収:379通、回収率:約79%)

イ 集計結果(主なもの)

(ア) ごみ量に変化はあったか？

⇒ 実験中にごみの減量効果はあまり見られませんでした。

選択肢	回答数	割合
特に変わらなかった	352	94.9%
燃やせるごみが減った	13	3.5%

(イ) ごみの適正分別等に気がつけたか？

⇒ 約4分の1に分別意識の変化が見られました。

選択肢	回答数	割合
普段と変わらなかった	279	75.2%
普段よりも気を付けた	87	23.5%

(ウ) 戸別収集の利点は？(複数回答可)

⇒ ごみの排出負担の軽減が半数近くで最多でした。

選択肢	回答数	割合
ごみ出しが楽だった	175	47.2%
特になかった	156	42.0%
通りすがりのごみ捨て等が減った	50	13.5%
ごみステーション管理の負担が減った	29	7.8%

(エ) 戸別収集の問題点は？(複数回答可)

⇒ 街の景観悪化が最多で、通行の支障や防犯面の不安も高い割合でした。

選択肢	回答数	割合
街の景観が悪くなった	141	38.0%
特になかった	129	34.8%
通行の邪魔や近所迷惑が心配だった	104	28.0%
プライバシーや防犯面が不安だった	99	26.7%

(オ) 戸別収集の導入の可否は？

⇒ 約70%が導入すべきでないとし、理由は収集費用増加が最多でした。

選択肢	回答数	割合
導入せず、今のままがよい	265	69.9%
どちらともいえない	72	19.0%
導入すべきだと思う	37	9.8%

(カ) ごみ収集有料化の可否は？

⇒ 80%近くが現状でよいとし、戸別収集のため有料化すべき・やむを得ないは、合わせて10%でした。

選択肢	回答数	割合
従来どおり無料のステーション収集がよい	293	77.3%
戸別収集のため有料化するのは、やむを得ない	31	8.2%
戸別収集を望むが、有料化すべきでない	17	4.5%
有料化すべきである	7	1.8%

※ アンケート結果の詳細は、別紙「参考資料」をご参照ください。

3 戸別収集のあり方について

(1) 戸別収集に関する実証実験の検証結果及び評価

表4 戸別収集の検証結果及び評価

	戸別収集(想定)	戸別収集(結果)	戸別収集導入への影響
メリット	・排出責任が明確化され ごみの減量及び分別が期待できる	・ごみの減量効果は見られず 分別促進の効果は一定程度あった	小
	・ごみ出しの負担が軽減される	・ごみ出しは容易だったが、通行の妨げになるなどの配慮が必要だった	中
	・ごみステーションの管理が不要になる	・ごみステーションの管理負担は減ったが、自宅前の管理が必要だった	
デメリット	・ごみステーションの設置場所等の調整が不要になる	・周囲への配慮が必要だったが、調整は不要	大
	・ごみステーション収集方式に比べてごみ収集費用が増大する	・費用は約9億円+約28億円増加する。多くの人員を確保していくのは困難が予想される	
	・ごみ収集の効率が悪い	・収集箇所が点在し、収集時間、作業員の負担及び車両の走行距離が増えた	中
	・排出者を特定しやすいため、プライバシー及び防犯面で不安が生じる	・プライバシー保護のため、ごみ出しに工夫が必要となり手間が増えた	小

(2) 今後の収集方式について

- 戸別収集の導入には、多額のごみ収集費用が必要なことが具体的に明らかになりました。昨今の労働力不足を背景に人員の確保は困難が予想されます。
- アンケート調査結果では、戸別収集の導入を望む意見は少数です。メリットは感じつつも、収集費用を増やしてまで行う公共サービスではないという意見が多数を占めており、さらに有料化には強い抵抗感が感じられます。
- 検証を通じて明確化された戸別収集のデメリット、特に大幅な費用の増加は、メリットに見合うものではないと考えられます。

● 戸別収集の導入については、今後も近隣市の動向等を注視していくものの、当市のごみ収集方式の方向性については、ごみステーション収集方式を継続していくこととします。

● ごみステーション散乱防止のための防鳥用ネットの貸し出し、ごみボックス購入費補助、さわやか収集等の事業を継続し、また、ごみステーション清掃委託等の新たな施策を検討することで、ごみステーション利用者の負担軽減等を図っていきます。